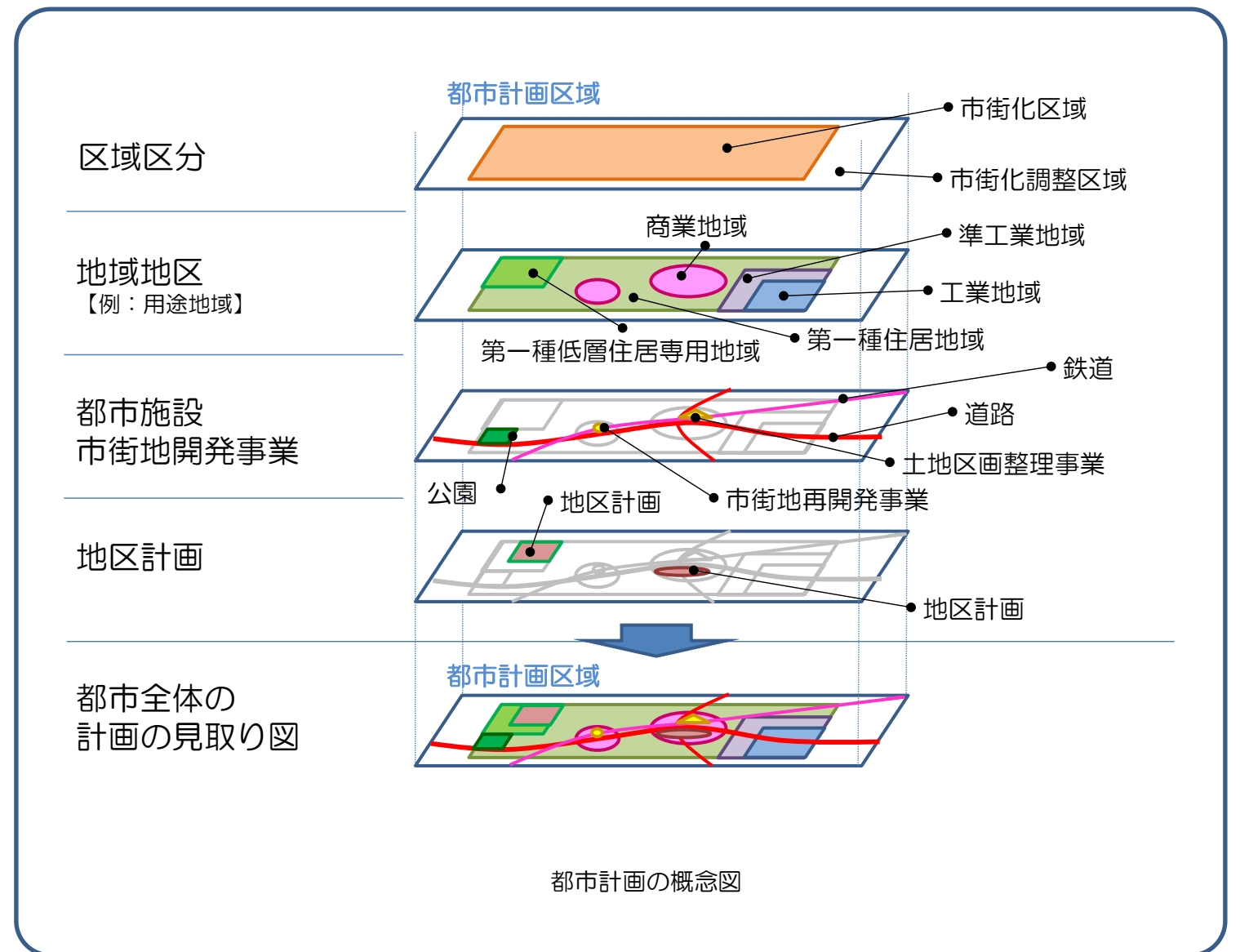


泉南市の今後の都市づくりの方向について

1	社会情勢の変化、泉南市総合計画の改定について.....	1
2	泉南市の主な現状と市民意向の変化について.....	2
3	泉南市の今後の都市づくりの方向について.....	6



令和5(2023)年8月7日

○社会情勢の変化

①人口減少、少子高齢化の進行

- ・日本の人口は令和35（2053）年に1億人を下回ると推計されている。
- ・令和7（2025）年には団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）に達する。
- ・各自治体で移住・定住促進や関係人口・交流人口増加に向けてまちの魅力を向上させ、発信する取組が進められている。

②安全・安心への意識の高まり

- ・自然災害が激甚化・頻発化し、暮らしの安全確保が大切な要素となっている。
- ・防災・減災には自助・共助・公助の取組とともに、デジタル化や地域防災力を高めるハード・ソフト一体の取組が必要とされている。

③持続可能な地域づくりの推進

- ・持続可能な開発目標－SDGsは「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現を目指している。
- ・SDGsは、経済、社会、環境を巡る幅広い課題への国際社会の目標として、あらゆる主体の取組が求められる。

④技術革新による時代の変化

- ・ロボットや自動運転などの技術革新の進展により産業構造が転換し、労働力不足を補う可能性がある。
- ・デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進により、さらに便利で安全・安心なまちづくりが期待される。

⑤脱炭素社会に向けた取組の推進

- ・国では温暖化への対応を成長機会と捉え、脱炭素化による「経済と環境の好循環」の創出を目指している。
- ・行政活動はもちろん、民間の事業活動や市民生活でも脱炭素社会に向けた取組の推進が求められている。

⑥産業構造の変化

- ・郊外の大規模集客施設の立地等により、鉄道駅周辺の商業地が衰退している。
- ・IC周辺や幹線道路沿道等で産業用地の需要が高まっている。

⑦協働のまちづくりの必要性の高まり

- ・人口減少や人口構造の変化、自治会加入率の低下等により地域コミュニティの活力が低下している。
- ・見守りや近隣の助け合い等、地域のつながりの大切さが再認識され、市民参画・協働のまちづくりが求められている。

⑧新型コロナ危機の経済社会への影響

- ・感染症対策や健康への意識が高まっており、感染リスクを抑えつつ生産性を向上する「新しい生活様式」が必要とされている。

○泉南市総合計画の改定

第5次泉南市総合計画（平成25年9月策定）	
計画期間	基本構想及び基本計画 平成25年（2013）度～令和4（2022）年度
まちづくりの視点	視点1 主体的で独自性豊かなまちづくり 視点2 みんなで公共を担うまちづくり 視点3 地域資源の力を引き出すまちづくり
めざすべき将来像	豊かな環境・支えあい、人を大切にする泉南市 ～みんなで夢を紡ぐ生活創造都市～
まちづくりの方向	すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち みんなが健やかで、みんなが助けあうまち 産業の活力が増し、にぎわいと交流が生まれるまち おだやかに暮らせる、安全と安心のまち 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち みんなでまちづくりに取り組むまち

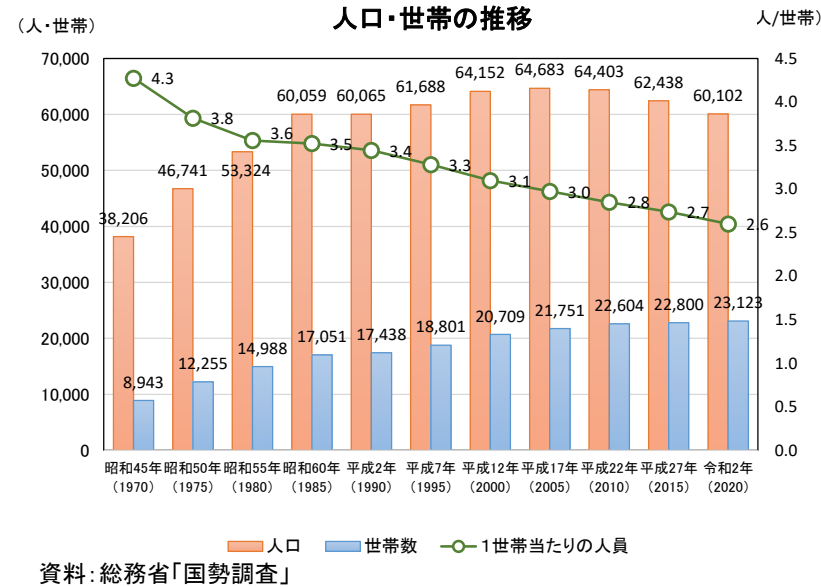
改定

第6次泉南市総合計画（令和5年6月策定）	
計画期間	基本構想及び基本計画 令和5年（2023）度～令和14（2032）年度
まちづくりの視点	視点1 みんなでつくり、共に進めるまちづくり《市民協働、公民連携等》 視点2 地域資源の力を引き出すまちづくり《人、自然、歴史、文化、産業、観光等》 視点3 新しい時代を見据えたまちづくり《ポストコロナ、DX、SDGs、脱炭素等》
めざすべき将来像	ちょっとええやん なかなかええやん ～かんじる つながる ひろがる 住人十色のまち せんなん～
まちづくりの方向	分野別政策1 『ひと』を育てる・輝かせる（子育て支援、歴史・文化等） 分野別政策2 『しごと』を生み出す・にぎわいを創出する（産業等） 分野別政策3 『暮らし』を守る・快適にする（都市基盤、防災・防犯等） 分野別政策4 『健幸』を築く・つながりをひろげる（医療・福祉等） 総合的政策 『しくみ』をつくる・運営する（行財政運営等）

2 泉南市の主な現状や市民意向の変化について

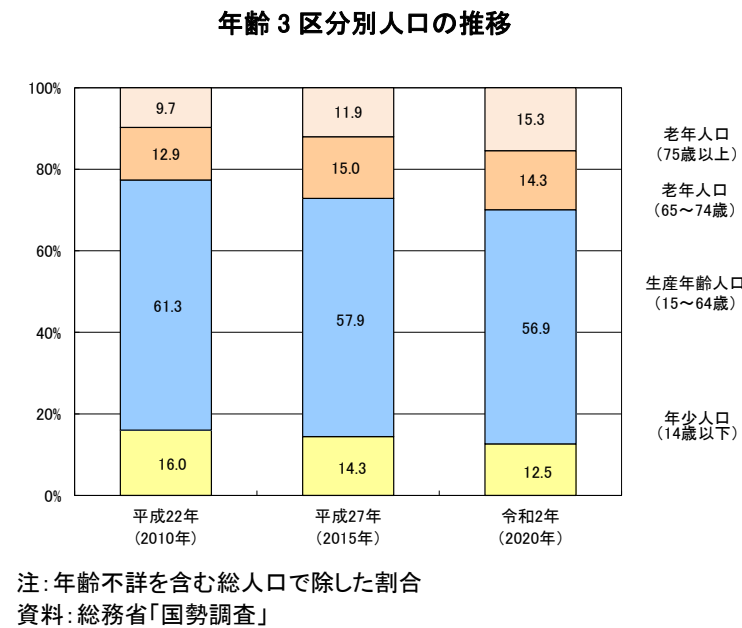
○人口・世帯

- ・減少率は、平成 22 (2010) 年～平成 27 (2015) で 3.1%、平成 27 (2015) 年～令和 2 (2020) 年は 3.7%。
- ・世帯数は増加傾向で、世帯当たり人員は減少傾向
- ・国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の平成 30 年推計では、概ね 10 年後の令和 17 (2035) 年で 50,589 人と予測されている。（令和 2 年の国勢調査をベースとした人口予測は令和 5 (2023) 年に公表予定）



○年齢3区分人口

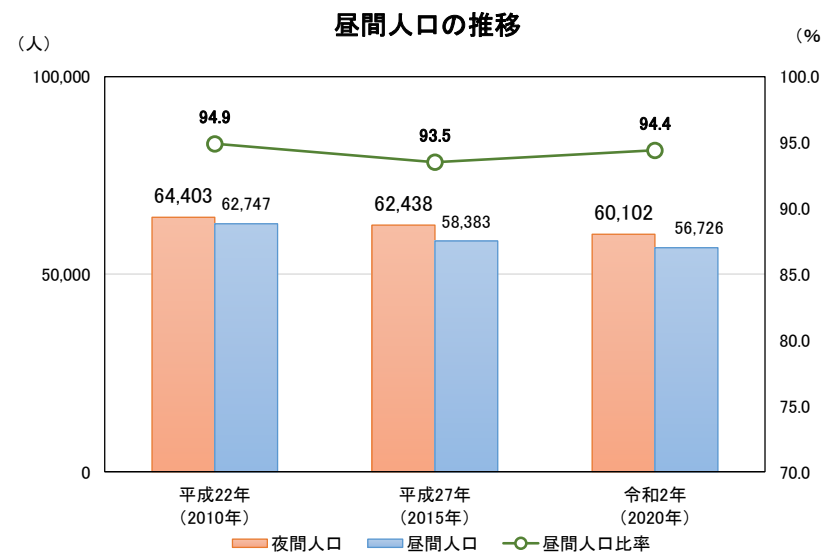
- ・令和 2 (2020) 年の年齢 3 区分別人口割合は、年少人口が 12.5%、生産年齢人口が 56.9%、老年人口が 29.6%。社人研推計では、概ね 10 年後の令和 17 (2035) 年で年少 10.9%、生産 54.0%、老年 35.1% と予測されている。
- ・老年人口のうち、75 歳以上の後期高齢者割合が大きく増加し、生産年齢人口の減少数は 5,301 人と最も多くなっている。



○昼間人口 (市内就業)

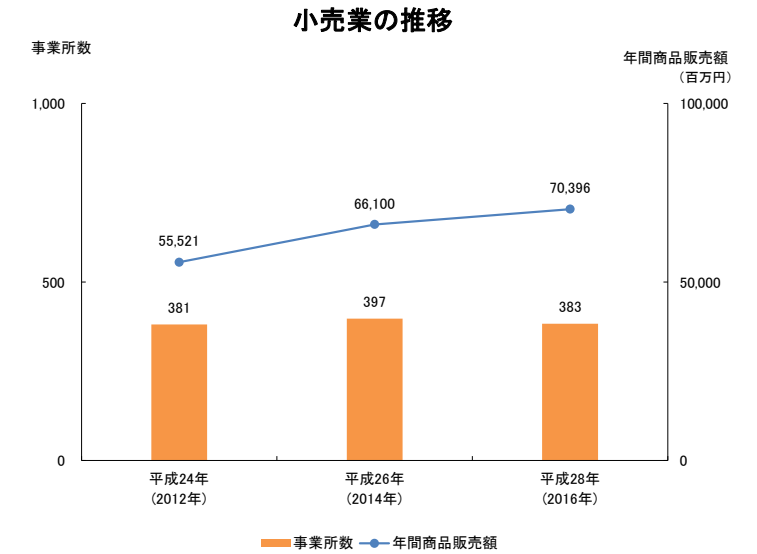
- ・平成 22 (2010) 年からの昼間人口割合は、概ね 94%程度で推移していますが、昼間人口の減少率(▲9.6%)が夜間人口の減少率(▲6.7%)を上回っている。

資料: 総務省「国勢調査」



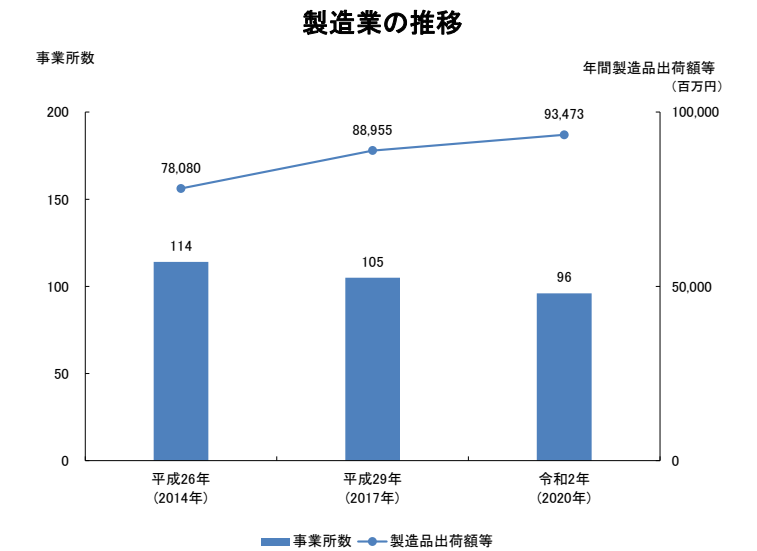
○小売商業

- ・平成 28 (2014) 年の小売業年間販売額は、約 704 億円で増加傾向。
- ・事業所数は平成 26 (2014) 年から減少。(R3 年は現時点で未公表)



○製造業

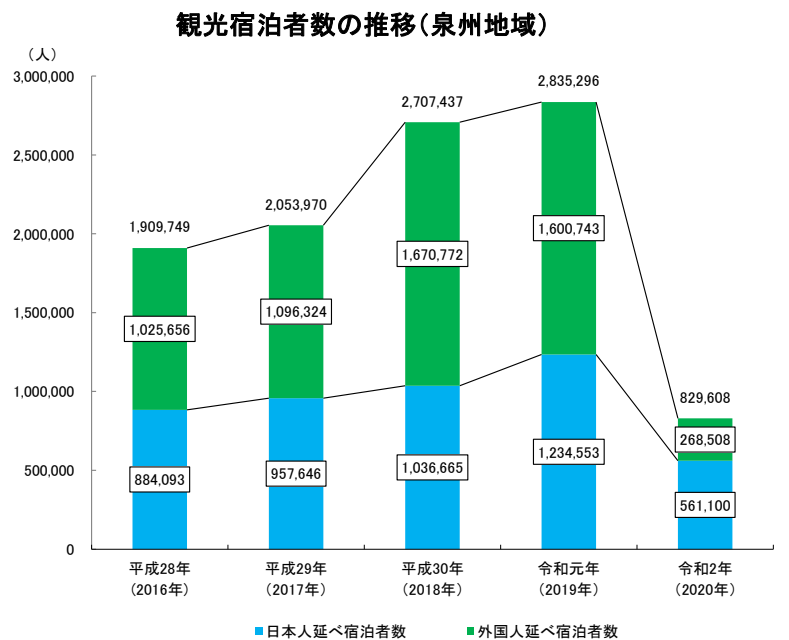
- ・令和 2 (2020) 年における年間製造品出荷額等は約 935 億円で、平成 26 (2014) 年以降増加傾向。
- ・事業所数は平成 26 年から減少傾向にある。



○観光宿泊者数

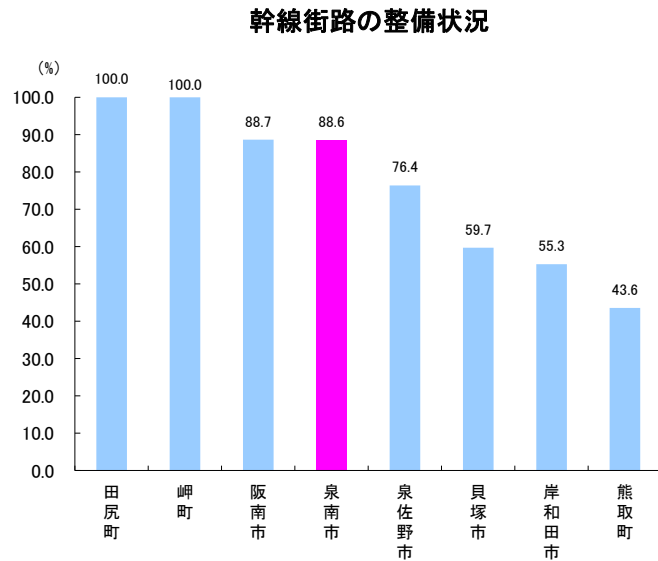
- ・泉州地域 (8 市 4 町) の観光宿泊者数は、外国人宿泊者が 5 割を超え、平成 30 (2018) 年まで増加傾向にあったものの、令和 2 年 (2020) 年では新型コロナウイルス感染症の影響等により大きく減少。

注1: 推計値は、推計にあたって使用する宿泊旅行統計調査の回答サンプル数が少ない等の要因により、実態を正確に表しているものではない。
注2: 泉南市・泉大津市・和泉市・高石市・忠岡町・岸和田市・貝塚市・泉佐野市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町
資料: 大阪府「観光統計調査」



○幹線街路（都市計画道路）の改良率

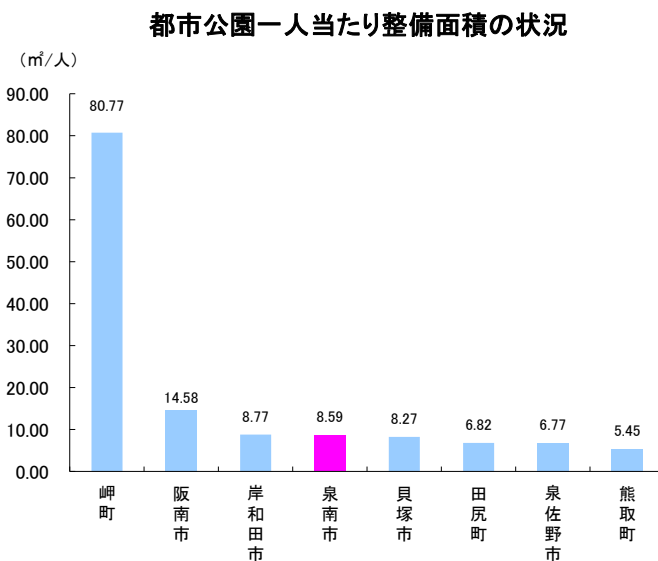
・令和3（2021）年3月末現在における、都市計画道路（幹線街路）の改良率は88.6%で、泉州・泉南地域では阪南市とほぼ同じく3番目に高くなっています。また、改良率は平成26（2014）年からわずかに増加。



注：幹線街路改良率＝改良済延長÷総延長
資料：国土交通省「都市計画現況調査（令和3年3月現在）」

○都市公園市民一人当たり整備面積の変化

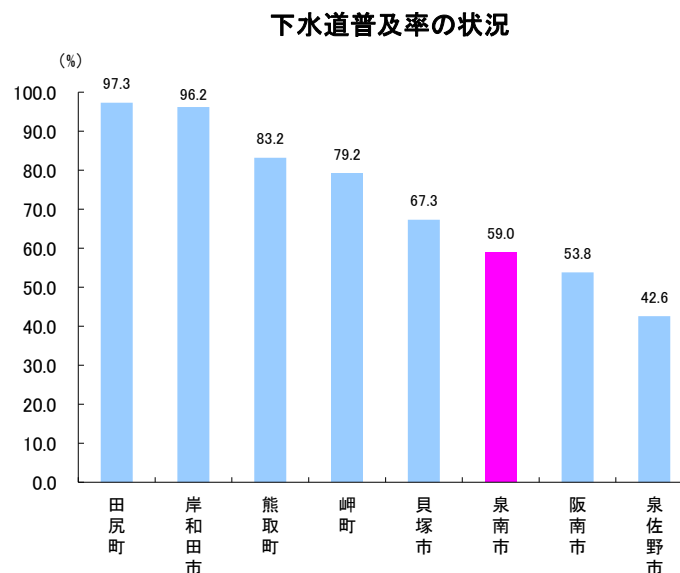
・令和4（2022）年3月末現在における人口一人当たり都市公園面積は8.59㎡で、泉南りんくう公園等の整備により、平成25（2013）年から約4㎡/人増加。
・都市公園法の都市公園整備水準10㎡以上を下回っている。



注：泉南市は令和4年3月末現在（他市町は随時更新予定）
資料：大阪府公園課「大阪府都市公園一覧表（R2.3）」

○下水道普及率

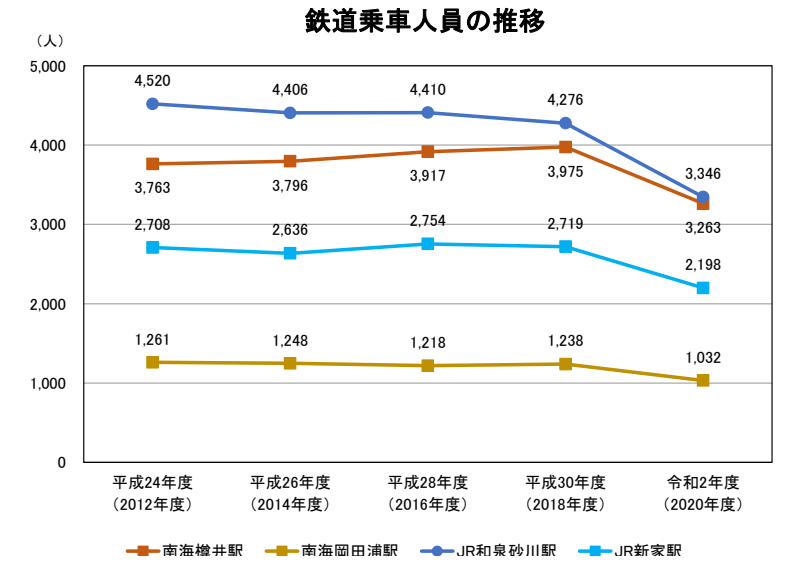
・令和3（2021）年度における下水道普及率は59.0で、平成24（2012）年度から約6%増加。
・泉州・泉南地域で比較的低くなっている。



注：下水道普及率＝下水道利用人口÷総人口
資料：大阪府下水道事業課（令和3年度）

○公共交通

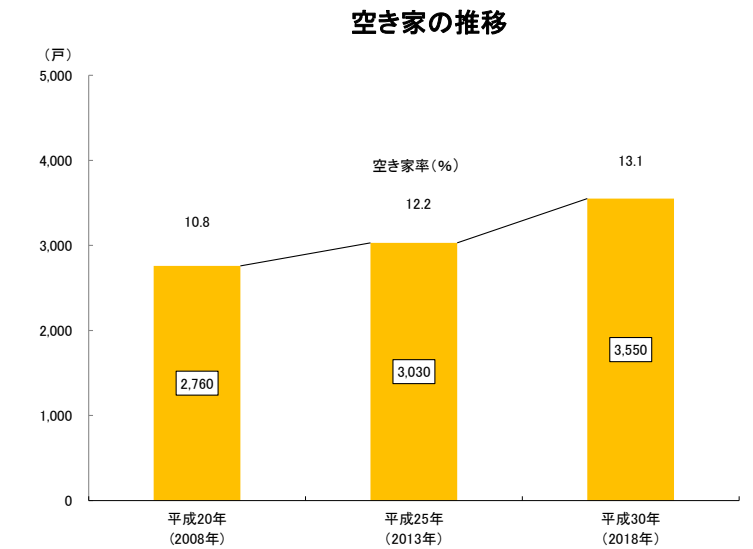
・平成24（2012）年度から平成30（2018）年度までの鉄道一日平均乗車人員の推移をみると、南海樽井駅が増加、南海岡田浦駅、JR 新家駅は横ばい、JR 和泉砂川駅は減少傾向。
・平成30（2018）年度から令和2（2020）年度では、新型コロナウイルス感染症による影響等により、鉄道乗車人員は全駅で減少。



資料：西日本旅客鉄道株式会社、南海電気鉄道株式会社

○空き家

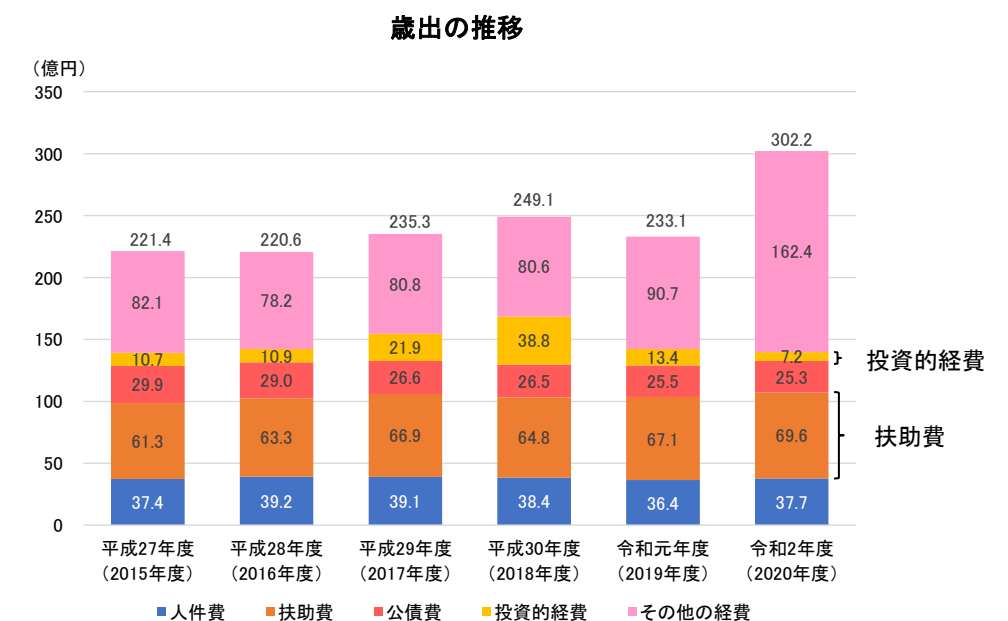
・住宅・土地統計調査（サンプル調査）において、平成30（2018）年の総住宅数は27,150戸で、このうち空き家は3,550戸で13.1%。
・空き家率は、平成20（2008）年から2.3ポイント増加。
・市の実態調査による空き家数は、平成29年3月時点で637件（調査対象件数の25.6%）、令和5年3月時点で445件（調査件数の58.9%）である。



資料：総務省「住宅・土地統計調査」

○歳出（財政）

・歳出は、これまで、概ね220億円～250億円で推移。令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、約300億円。
・公共施設等の老朽化が進んでいることや、高齢化の更なる進行により、投資的経費、扶助費の増加が見込まれている。

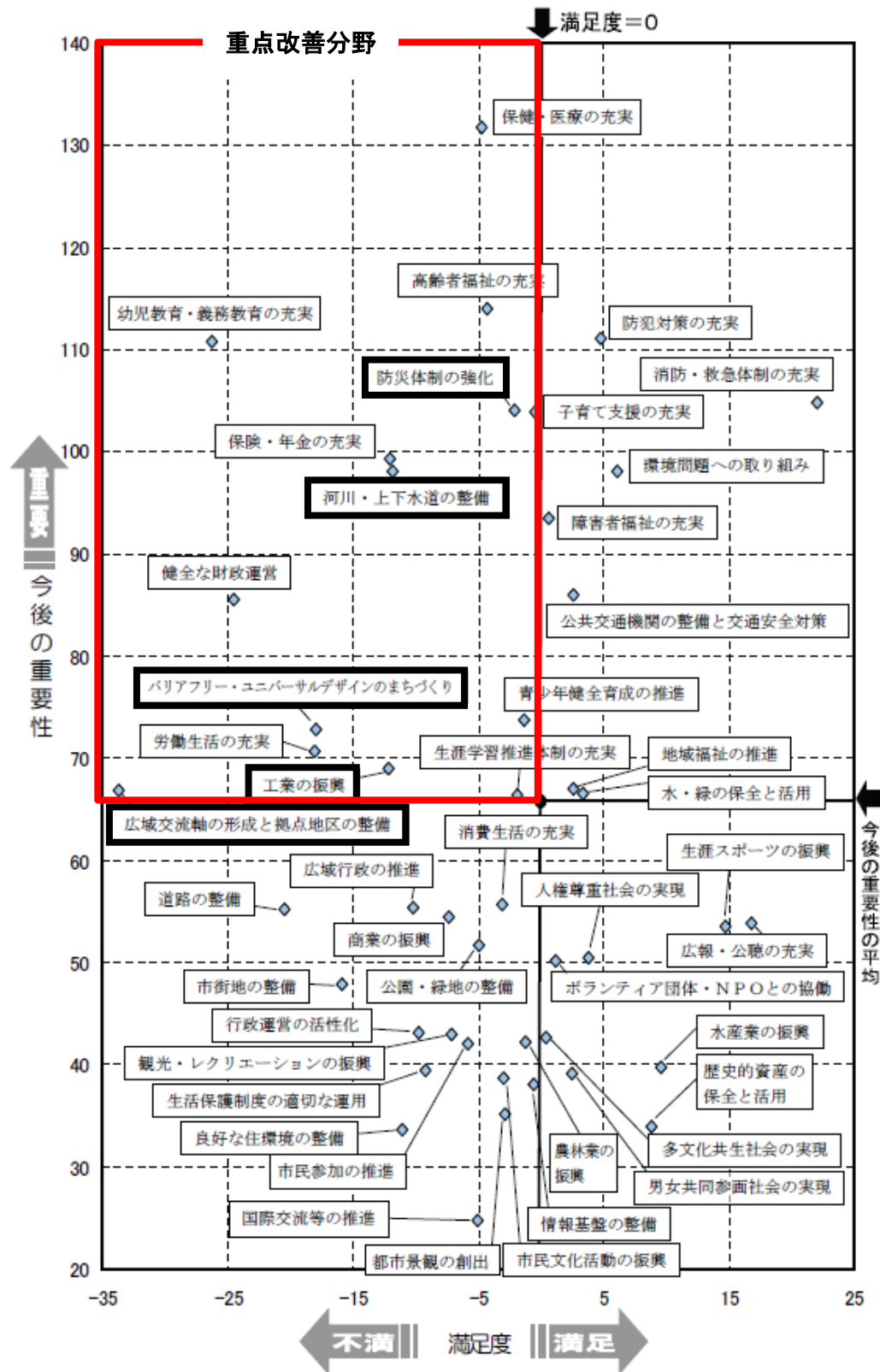


資料：総務省「市町村決算カード」

○市民意向の変化

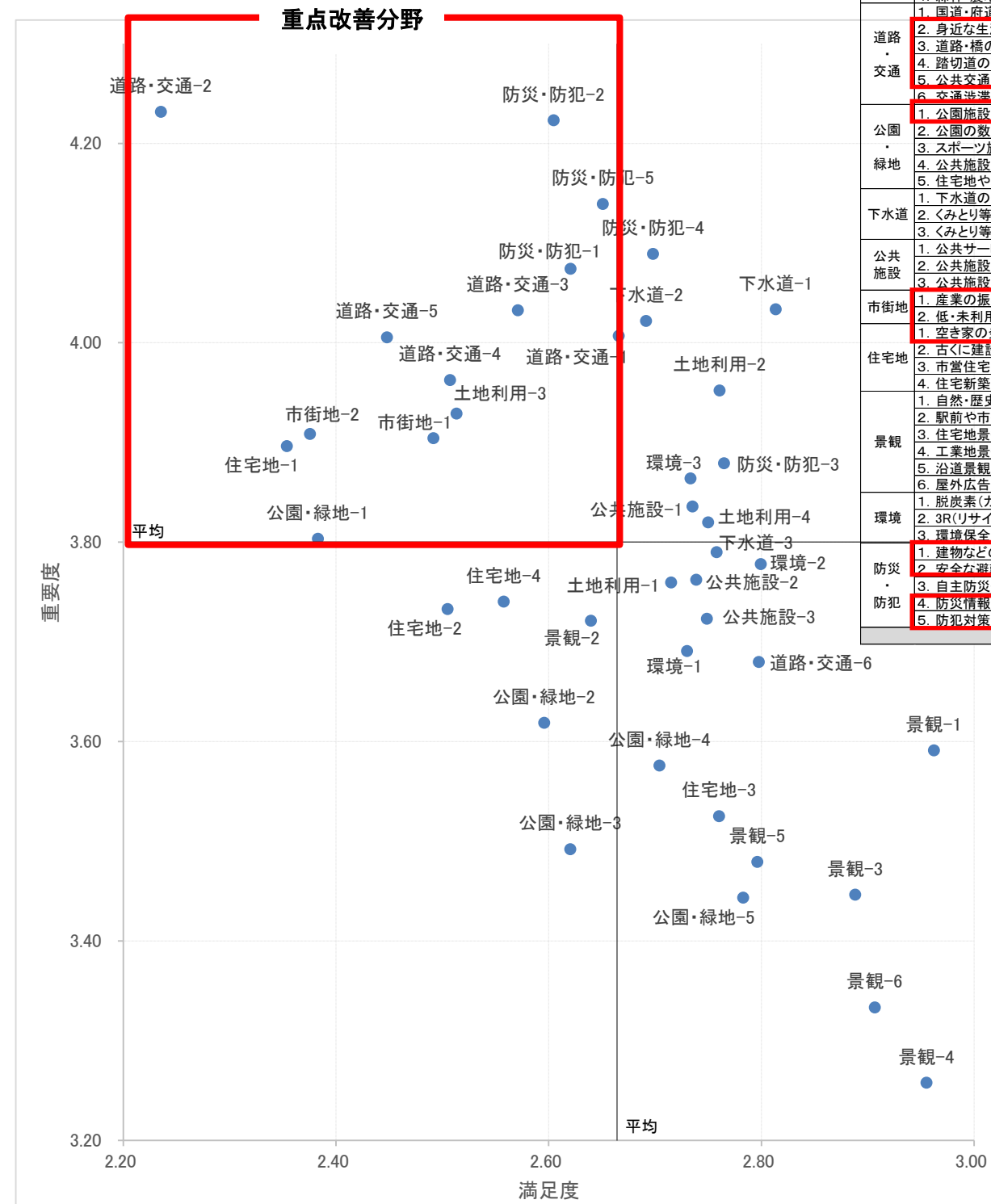
平成 22 (2010) 年 実施 (旧総合計画)

●施策の「満足度」と「今後の重要性」の関係



令和 5 (2023) 年 実施 (回収率約 41%)

道路、公共交通、空き家、空き地対策等が増加

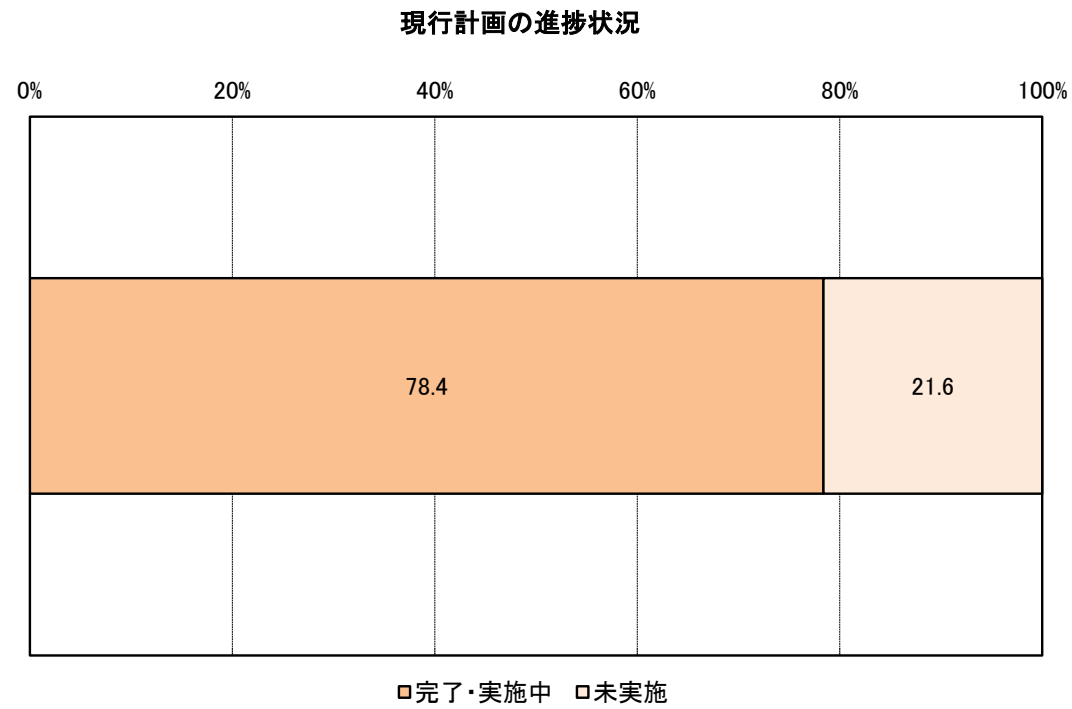


項目	内容
土地利用	1. 土地の使い方・建物の建て方のルール
	2. 災害危険性が高い場所への建物立地の規制
	3. 幹線道路の沿道機能を活用した産業施設等の立地誘導
	4. 森林・農地等の自然環境の保全と活用
道路・交通	1. 国道・府道等幹線道路の整備状況
	2. 身近な生活道路の安全対策
	3. 道路・橋の適切な維持管理
	4. 踏切道の改善
	5. 公共交通の充実
	6. 交通政策対策
公園・緑地	1. 公園施設(遊具・トイレ等)の更新・修繕
	2. 公園の数や場所
	3. スポーツ施設の充実
下水道	1. 下水道の整備
	2. くみとり等から下水道への移行
	3. くみとり等から合併浄化槽への移行
公共施設	1. 公共サービスの確保
	2. 公共施設の適正配置
	3. 公共施設(建物)の適切な維持管理
市街地	1. 産業の振興と企業誘致の推進
	2. 低・未利用地の有効活用
	3. 空き家の発生抑制と活用
住宅地	1. 古くに建設された住宅団地などの再生
	2. 市営住宅の適切な維持管理
	3. 住宅新築・改築、環境設備導入等に対する支援
	4. 住宅新築・改築、環境設備導入等に対する支援
景観	1. 自然・歴史景観の保全(例:紀州街道など)
	2. 駅前や市役所等の拠点景観の形成
	3. 住宅地景観の保全・形成
	4. 工業地景観の形成
	5. 沿道景観の形成
	6. 屋外広告物の規制・誘導
環境	1. 脱炭素(カーボンニュートラル※)社会の推進
	2. 3R(リサイクル・リユース・リデュース)の促進
	3. 環境保全活動(清掃活動を含む)への支援
防災・防犯	1. 建物などの耐震化の促進
	2. 安全な避難所・避難地の確保
	3. 自主防災組織・消防団の充実
	4. 防災情報の充実
	5. 防犯対策の充実

不満足と重要度が平均を上回る項目

○現行計画の進捗状況

- ・現行計画は125の方針（施策・事業）を設定しており、このうち、約8割が完了・実施中。
- ・未実施については、検証し次期都市計画マスタープランへの反映を検討。



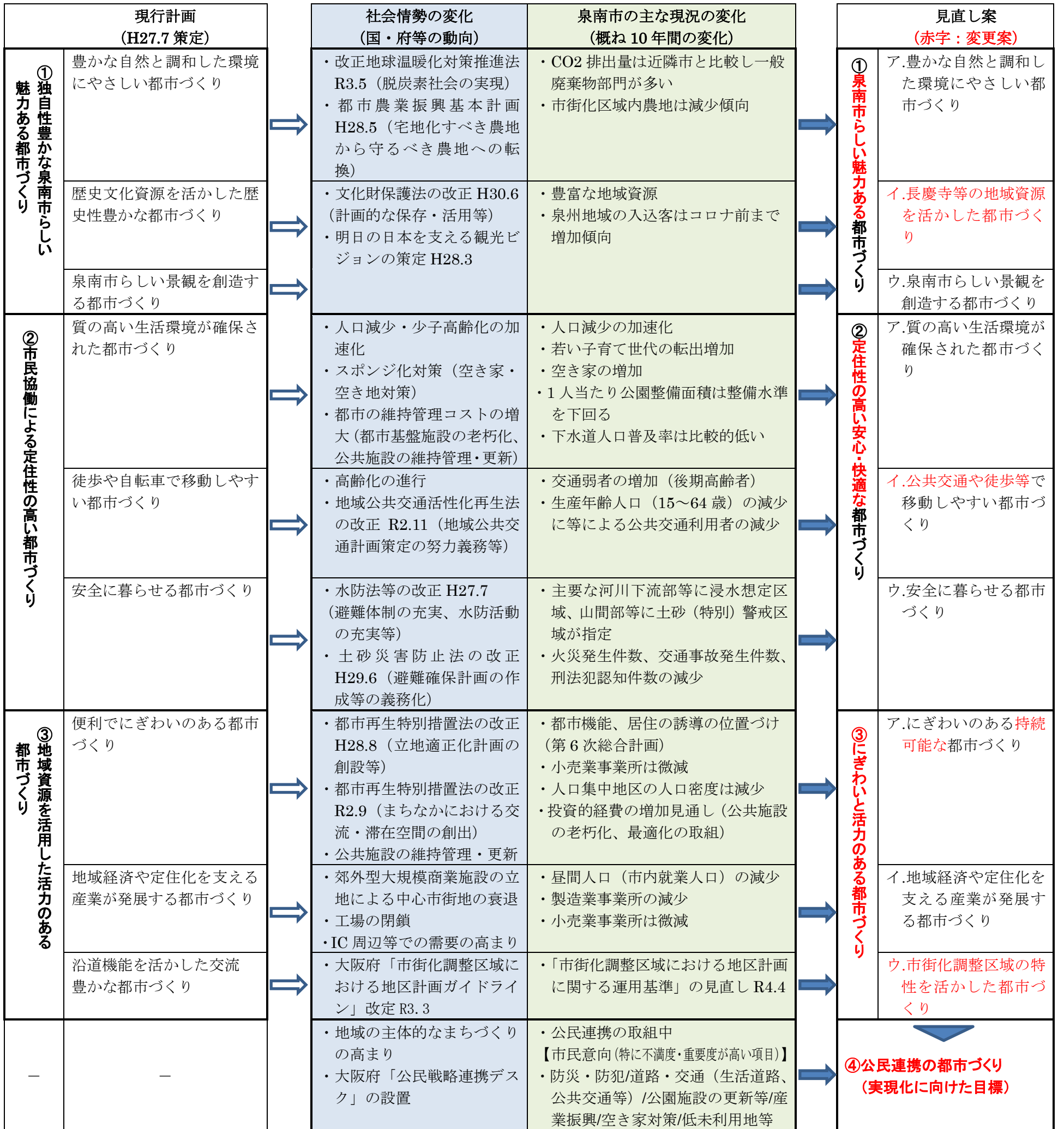
進捗状況の整理表

方針項目	計	完了	内容	実施中	未実施	廃止	内容
道路	12	1	・樽井駅周辺駐輪場整備	10	1	0	・岡田浦駅周辺における安全な道路の確保
公共交通	5	1	・バス車両のバリアフリー化	3	1	0	・南海樽井駅における運行本数の増発
公園	17	1	・泉南ロングパークの整備	11	5	0	・泉南中央公園における防災機能の強化 ・「水・花・みどりのネットワーク」 ・ため池や金熊寺梅林における風致公園等の位置づけ検討 ・紀泉わいわい村、市民の里、青少年の森など自然とふれあう場の充実とハイキングコース等の整備 ・堀河ダム、お菊松周辺等における散策ルートの確保
上水道	2	2		0	0	0	
下水道	7	0		7	0	0	
河川等	7			4	3	0	・家屋への被害が想定される改修未整備区間の整備 ・開発行為による雨水流出量の増加を抑制する調整池や浸透施設の設置検討 ・生物多様性に配慮した河川の整備・管理
その他公共施設	6	2	・泉南阪南共立火葬場の整備 ・総合福祉センター等のバリアフリー化	4	0	0	
都市防災	11	0		7	4	0	・泉南中央公園における（広域避難地等）防災機能の強化 ・道路や公園・緑地などのオープンスペースの確保 ・建蔽率60%以上の市街化区域における準防火地域の指定 ・防災都市づくり計画の策定
市街地	9	2	・樽井駅周辺道路のバリアフリー化 ・りんくうタウン南・中地区地区計画の見直し	6	1	0	・南海岡田浦駅周辺における生活利便機能、住環境の安全性や快適性の向上検討
住宅地	8	1	・住宅用太陽光発電システム設置費補助事業（一定の成果により制度廃止）	6	1	0	・UR 泉南一丘団地の再生・再編
自然環境の保全・活用	7	0		7	0	0	
環境保全	15	0		11	3	1	・「モビリティ・マネジメント」への取組検討 ・公共施設についてみどりのカーテン等の取組検討 ・遮熱性舗装や省エネルギーなどの取組 ・校庭の芝生化（廃止）
地域資源の活用	5	0		4	1	0	季節に応じた観光ルートの整備
都市景観	14	2	・湾岸区域における魅力ある景観の創出 ・りんくう公園の整備	6	6	0	・「泉南市景観計画」の策定と景観行政団体への移行 ・和泉葛城山系の山並み景観の保全と住宅地と農地、ため池などが一体となった田園風景の景観の創出 ・丘陵部住宅地における山並みの眺望に配慮した緑化の推進及びスカイラインに配慮した景観づくり ・良好なため池景観の維持 ・熊野街道（紀州街道）における歴史的なまちなみの保全・活用 ・景観重点区域の位置づけ検討
合計	125	12		86	26	1	
	100(%)	9.6		68.8	20.8	0.8	

※未実施の取組については、泉南市以外の事業主体や市民等の協力が必要な施策・事業等を含む

3 泉南市の今後の都市づくりの方向について

都市づくりの目標の見直し（案）



※矢印は主要な関係を示している

・情報化社会の進展 (DX: (デジタルトランスフォーメーション) の加速化等)

・新型コロナウイルス感染症の影響 (新たな働き方や意識の変化)

すべての目標に対応

地域公共交通計画とは：地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにする マスタープランのこと。

避難確保計画とは：浸水や土砂災害が発生するおそれがあるとき、防災上の配慮を要する方が利用する施設 (要配慮者利用施設) の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項を定める計画のこと。

立地適正化計画とは：持続可能な都市構造への再構築を目指し、人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するためのマスタープランで、市町村が必要に応じて策定する。持続可能なまちづくりに向け、居住機能や様々な都市機能 (医療・福祉・商業、公共交通等) を誘導するもの。

公民戦略連携デスクとは：企業・大学と連携し、様々な社会課題の解決を図る窓口となる専任組織のこと。

DX (デジタルトランスフォーメーション)：まちづくり DX では、基盤となるデータ整備やデジタル技術の活用を進め、まちづくりの在り方を変革することで都市における新たな価値創出又は課題解決を図ること。